SECTION I 2 の練習問題解答例

公共選択論 2020:浅古泰史

- (a) 議会が費用 c_L^2 を支払って ω の値を知ることができた場合, 政策の結果 $\epsilon x = 0$ とすることができるため議会の効用は $-c_L^2$ となる. 費用を支払わず, ω の値を知ることができなかった場合は,議論した通りp = 0とすることが最適となり, 議会の期待効用は $-\epsilon^2$ となる. よって, $c_L < \epsilon$ であれば, 議会は費用を支払って ω の値を知ろうとする.
- (b) 官僚が費用 c_B^2 を支払って ω の値を知ることができた場合, 政策の結果 $\epsilon x = x_B$ とすることができるため官僚の効用は $-c_B^2$ となる. 費用を支払わず, ω の値を知ることができなかった場合は $p = x_B$ とすることが最適となり, 官僚の期待効用は $-\epsilon^2$ となる. よって, $\epsilon_B < \epsilon$ であれば, 官僚は費用を支払って ϵ_B の値を知ろうとする.
- (c) (i) この場合,官僚のみが ω の値を知るインセンティブを有するため,権限を委譲した場合は $x=x_B$ が実現する.権限を委譲しないときの議会の期待効用は $-\varepsilon^2$ であり,委譲した場合の期待効用は $-x_B^2$ となるため, $x_B<\varepsilon$ という仮定より委譲する.
 - (ii) この場合,議会・官僚双方が ω の値を知るインセンティブを有する.権限を委譲しないときの議会の期待効用は $-c_L^2$ であり,委譲した場合の期待効用は $-x_B^2$ となるため, $x_B < c_L$ のときのみ委譲する. $(x_B = c_L \sigma)$ ときは無差別である.)
 - (iii) この場合, 議会・官僚双方が ω の値を知るインセンティブを有さない. 権限を委譲しないと きの議会の期待効用は $-\varepsilon^2$ であり, 委譲した場合の期待効用は $-\left(x_B-\varepsilon\right)^2/2$ —

$$(x_B + \varepsilon)^2/2 = -x_B^2 - \varepsilon^2$$
となるため, 委譲しない.

(d) 第一に,官僚にも情報入手をするインセンティブがないほど調査に費用が掛かるような政策は 委譲しない(iii).また,議会でも簡単に情報が入手できるような費用が低い場合も委譲しない (ii).